

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371300894
法人名	医療法人福友会
事業所名	グループホーム 守山寿
訪問調査日	平成20年 2月 6日
評価確定日	平成20年 3月24日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

【評価実施概要】

事業所番号	2371300894
法人名	医療法人福友会
事業所名	グループホーム 守山寿
所在地	名古屋市守山区川西一丁目306 (電話) 052-758-0181
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年2月6日(水)

【情報提供票より】(20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (1月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	8	要介護 2	6		
要介護 3	3	要介護 4	1		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 86 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人福友会 天寿病院 中村歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

寮を改装した3階建ての鉄筋コンクリートの建物で、法人の理事長による「守山寿」の看板や玄関に掲げられた「自分らしさ、いつまでも」と書かれた毛筆の書は達筆で味があり、雰囲気や和ませてくれる。グループホーム独自の理念「安心して、安全、楽しく過ごしていただく」を管理者を中心に職員が一丸となって実践している。入居者は、母体である病院にリハビリ通院や、近所の商店に買い物に出かけるなどメリハリのある生活を送っている。また、医療との連携が整っており、入居者や家族ともに安心した生活を送ることが出来る。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との関わりなどが課題となっていたが、運営推進会議を進める中で地域代表の協力を得て各種委員会を設立するなど改善されている。市との連携は模索中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果についてはスタッフ会議で全職員で検討するなど取り組んでいるが、自己評価に関しては管理者と計画作成担当者で実施しているので、全ての職員で検討することが望まれる。また、2ユニットあるが、ユニット毎に独自の自己評価を実施することが期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、家族の意見を中心にホームの様子など報告し、改善項目の検討など意見を聞き、健康や環境、生活面などの委員会を設立するなど質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りは行事のお知らせとして季節ごとに送付されているが、入居者の様子や収支報告、職員の異動等、毎月作成し送付することが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の店の利用や推進会議の協力などで地域との付き合いは深まりつつあるが、ホームの予定と重なるなどの理由で町内会の行事にはまだ参加していない。回覧板を回してもらえようになったので、ホームの予定を検討し、積極的に町内会の行事に参加し、地元の人々と交流することが望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人母体は高齢者対応を中心とした医療に従事しており、その人らしく生活することを支え「安心して、安全に、楽しく過ごしていただく」というグループホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎月のスタッフ会議の中で話し合い、理念に沿った今月の目標を作り、ホーム内に掲示し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	雑貨屋での買い物や喫茶店の利用など、つきあいは深まりつつあるが、ホームの予定と地域行事が重なるなどして町内会の行事にはまだ一度も参加していない。	○	回覧板を回してもらえるようになったので、地域の行事を含めグループホームの予定を作成するなど検討し、積極的に町内会の行事に参加し、地元の人々と交流することが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は全ての職員に伝え、質の向上に向けた話し合いをしているが、自己評価は管理者と計画作成担当者が行っており、他の職員は関わっていない。	○	自己評価は職員全員で取り組み、理念やサービス内容が同じであっても、ユニット毎に独自の自己評価を行うことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、会議での意見交換は入居者家族や地域代表とお粉手織り、議題に合わせ話し合いがなされている。また、課題ごとに委員会を設立し、検討を進めるなどサービスの向上に取り組み改善に向けて努力している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ市町村担当者とは、連携が取れていない。	○	市町村担当者にも運営推進会議への参加など働きかけ、サービスの向上に連携して取り組むことが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りは3ヶ月に1回、はがきサイズで送付しているが、行事の予定のみとなっている。	○	ホーム便りは毎月作成し、行事予定表だけでなく、入居者それぞれの日常の様子や職員の異動や収支報告などの取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、まず家族の意見を聞くようにしており、面会時にも意見や要望を聞く機会を設け、さりげない場所に意見箱を設置するなどの取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族への信頼関係を築くためにも、法人内でグループホームに適した人材を確保することで異動は最小限に抑え、職員間の人間関係を良くする事で離職を防ぐ取り組みがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できる体制があり、法人内でも季節に合わせ、食中毒や風邪予防などの勉強会も実施されている。参加した職員は報告書を作成し、他の職員にも伝えている。ホームとして資格取得に取り組む職員を応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会が主催する研修会に参加し、情報交換やネットワーク作りを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学してもらうことから始め、必要であれば体験入所により本人や家族の納得が得られるシステムとなっている。今までの生活歴を聴き取り、入居前の生活に近い状態にできるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識をもたず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりや声かけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、本人や家族の意向、希望を確認してサービスを提供し、半年に一度は担当職員と充分話し合う機会を作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、ケアカンファレンスを開催し、本人家族の希望を聞き、管理者や担当職員、協力病院看護師と話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の記録を基に3ヶ月に1度見直しがなされている。状態に変化が生じた場合は本人や家族と相談しながら、その都度見直し、現状に即した計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である医療法人の病院と介護老人保健施設がすぐ近くにあり、連携が整っている。本人や家族の状況に応じて、持病の治療やリハビリの送迎等必要な支援を柔軟にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携が取れており、緊急事態が起きても医療のバックアップ体制が整っている。また、協力病院以外に本人や家族の要望があれば、受診を受けれる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力病院の医師や家族と共に、本人の状況を把握し、希望に沿った支援がなされている。現在ホームで終末期を望む該当者はいないが、家族の意向を聞き、希望であれば終末期ケアに対するマニュアルを作成するよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活歴に適した言葉かけをしており、車椅子の入居者のプライバシーを確保するため、トイレに暖簾をかけるなどの工夫をしている。記録簿の管理も配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	早く食事を済ませ、自室で趣味の貼り絵に没頭したり、一人になっても自分のペースで食事をするなど、その人らしく自由に生活しており、職員もそれに沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の入居者にあつた一連の食事の流れを職員と共に行っている。また、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気作りに配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに風呂場が2つあり、入居者に合わせ、シャワー浴や車椅子での入浴も可能である。希望すれば毎日でも入浴可能であり、清潔保持のため週2回は入浴よう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、手芸のできる人に入居者全員の背あてのクッションを作ってもらったり、趣味の書道や貼り絵の作品も活かされている。週刊誌を楽しんだり、進んで後片付けをするなど見守りで支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の大半の方が散歩も兼ねて病院のリハビリに出かけたり、施設の行事に参加している。近隣の雑貨屋さんや喫茶店の利用したり、法人内のバスを使って外出も実施されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーをつけ、出入りを把握し、鍵をかけない支援をしている。近隣の人にも協力を働きかけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署職員による地震や防火訓練を入居者、職員一同で行っている。また、入居者の各部屋には防災頭巾を設置している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ管理者の監修のもと献立を作成し、ホーム日誌に摂取量を記入している。嚥下障害のある入居者には、とろみ剤を使用し、誤嚥を予防している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寮を改装したホームであるが、慣れ親しんだ調度品を置くなどして家庭的な雰囲気を作る工夫をしており、入居者による絵画や書道などを掲示し、居心地良い空間を作っている。また、フローアにはいつでも読める新聞や雑誌が置いてあり入居者はゆっくりとした雰囲気の中で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェスト以外は、各自馴染みのものを持ち込み、本人が居心地よく過ごせように配慮されている。また各部屋には、加湿器が設置されており風邪や病気に対する予防がされている。		

※  は、重点項目。